

米次官が協力姿勢

国会議員連絡「計画前進を期待」 協と意見交換

【東京支社】国際リニアコライダー（ILC）の国内誘致を目指す国会議員の誘致実現連絡協議会（代表・河村建夫衆院議員）は10日、米エネルギー省科学技術担当次官のポール・ダバー氏と意見交換した。ダバー氏は「日本政府がILCを積極的に評価し、（計画）前進することを期待している」と協力する姿勢を示した。



東北誘致

ダバー氏は国際フォーラム参加などのため来日。国会内で河村氏、超党派のリニアコライダー国際研究所



日本の国会議員と意見交換するポール・ダバー氏（中央）

建設推進議員連盟の鈴木俊一副会長（衆院岩手2区）と塩谷立幹幹事長、自民党の甘利明選対委員長、超党派の「科学技術の会」の細田博之会長らと懇談した。ダバー氏はあいさつで「もし日本政府が（計画）実行を決定したら、私たちは建設マネジメントや技術的側面について支援する形で参加したい」と説明。「私自身は米国の議員と話を進め、計画への合意が得られるよう協力したい」と語った。終了後、河村氏は「計画が決まれば米国の協力が得られるという確信が得られ

た。計画実現に向け日本政府へさらに働き掛けていきたい」と語った。協議会は議連と自民党の関係組織などで構成する。

地下トンネル内 排水対策に意見

都内で検討委員会

【東京支社】日本学術会議が設置した国際リニアコライダー（ILC）計画の見直し案に関する検討委員会と技術検証分科会は10日、都内で合同の第7回会合を開いた。参考人から科学的意義や地下トンネル内の排水対策について意見を聞いた。

検討委員8人、分科会委員7人のほか、大阪大名誉教授の細谷裕氏、高エネルギー加速器研究機構（KEK、茨城県つくば市）加速器研究施設の道園真一郎主幹が参考人として出席した。道園氏はトンネル内の地下水を処理する方法などについて説明。細谷氏はILCによるヒッグス結合の精密測定の意味などを解説し

た。委員からは「ILCが実現しなければ今後の素粒子物理学へどのような影響が出るか」などの質問が出た。

非公開での議論も行った。会合後、検討委の家泰弘委員長（日本学術振興会理事）は「回答案の文案を作り始めており、委員はその部分で意見が一致しているかなどを確認した。方向性はまだ詰まっていない」と説明。「巨額予算への国民理解も重要なポイント。これまでの疑問については納得した部分もあれば、もやもやした部分も残っている」と語った。

次回は月内に参考人ヒアリングと非公開での議論を行う予定。